

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 東福寺からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・東福寺の東は東山の森林につながり、境内にはモミジを始め樹木が多く植栽され、塀が巡らされているため、境内からの景観は概ね良好に保たれている。
- ・境内の周囲は住宅が立ち並び、都市化が進行している。



1-1 本堂の北西から西への眺望
：日下門と遠く本町通が見える。



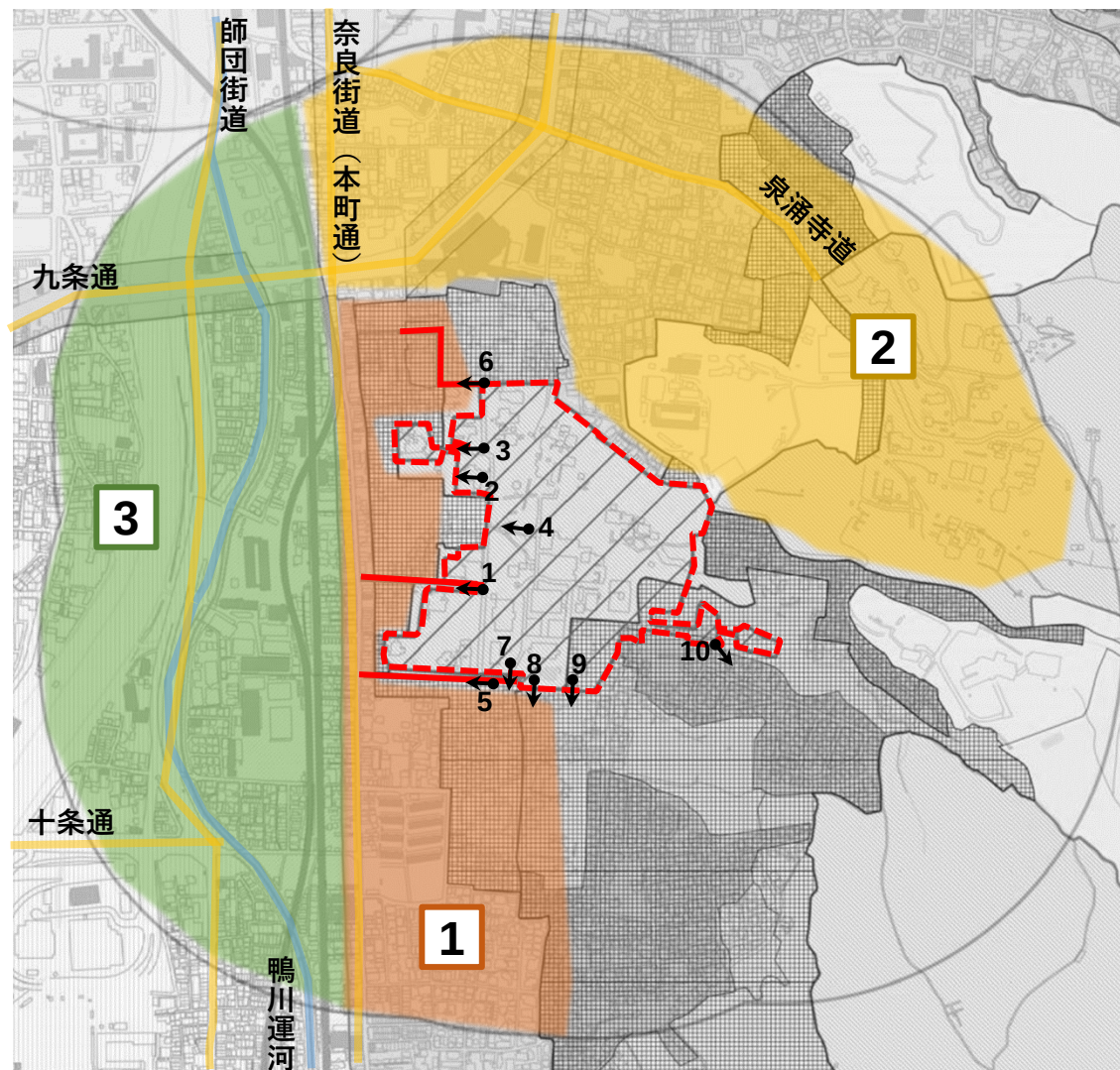
1-2 境内から西への眺望
：木立の間から塀越しに境外の建築物が見える。



1-3 月下門から西への眺望
：塀の上から境外の建築物が見える。



1-4 通天橋から西への眺望
：木立の奥に建築物が見える。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



1-5 勅使門から西への眺望
：連続した塀や樹木が見える。



1-6 洛東園前から西への眺望
：連続した塀や樹木が見える。



1-7 六波羅門から南への眺望
：周辺の住宅が見える。



1-8 勅使門から南への眺望
：周辺の住宅が見える。



1-9 勅使門に続く塀から南への眺望
：塀の上に住宅が見える。



1-10 最勝金剛院付近から南東への眺望
：塀の上に住宅が見える。

■ 2 東福寺周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・東福寺の周辺は東大路通や奈良街道、泉涌寺道などの古い街道や鴨川運河があり、寺社や町家などの歴史的建造物が点在している。
- ・奈良街道沿いには、町家や和風意匠の酒屋や米穀店などの商店が立ち並んでいる。
- ・東山の山ろく部は、落ち着いた住宅地となっており、JRや京阪電鉄の西側は工場や住宅が混在する地域である。



2-1 奈良街道から北への眺望
：酒屋や豆腐屋などの商店がある。



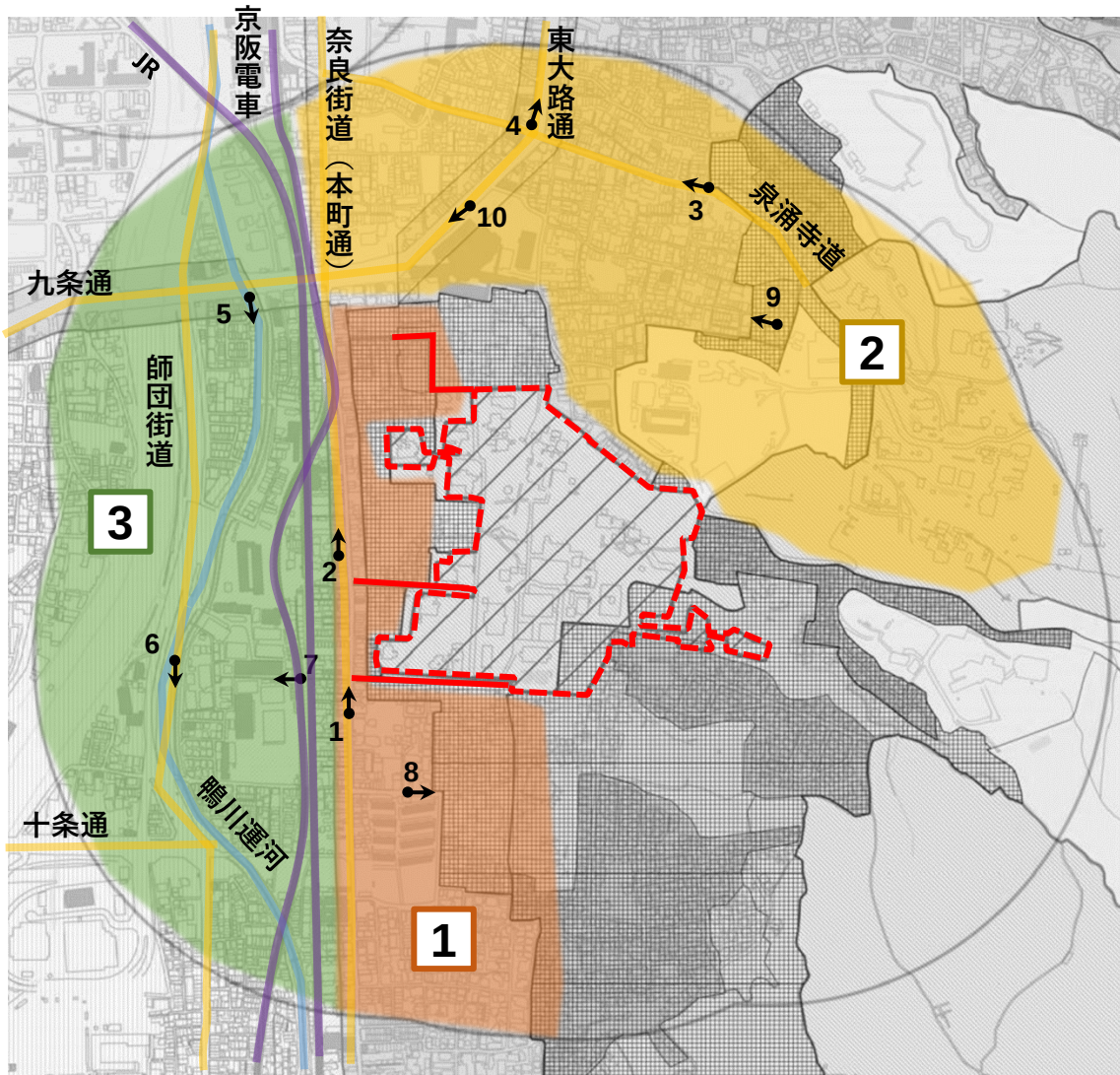
2-2 奈良街道から北への眺望
：古い町家が点在する。



2-3 泉涌寺道から西への眺望
：低層建築物が立ち並ぶ。



2-4 東大路通と泉涌寺道の交差点から北への眺望
：東大路通の南端にある今熊野商店街。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



2-5 九条通の高架下から南への眺望
：鴨川運河沿いには住宅が並ぶ。



2-6 師団街道から南への眺望
：伏見へ続く鴨川運河と川端通。



2-7 奈良街道以西の市街地
：中低層建築物が立ち並ぶ。



2-8 東福寺南の住宅地
：低層住宅が立ち並ぶ。

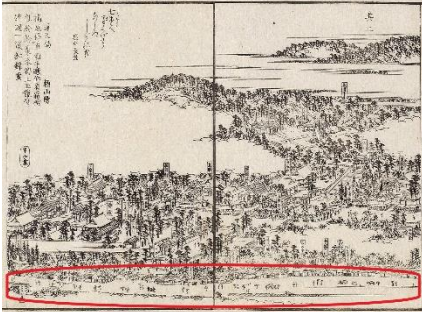


2-9 泉涌寺付近の住宅地から西への眺望
：傾斜地に低層住宅が立ち並ぶ。



2-10 九条通から西への眺望
：中低層の商店等が立ち並ぶ。

3 東福寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

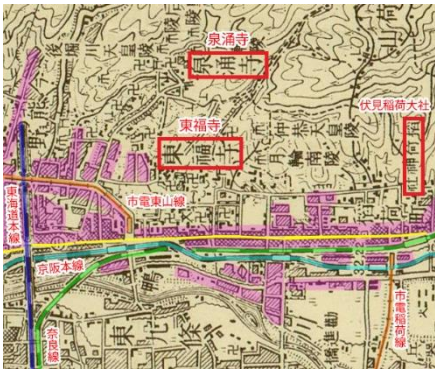
1 東福寺南側				参考写真等
ア エリアの歴史等	・伏見街道（奈良街道）は古来からの往還路とする説や天正期の開通説など起源が不詳である。平安期の東福寺辺りの地には、藤原氏の氏寺・法性寺(旧)の巨大な伽藍があったとされるので、その当時から街道は存在していたと考えられる。 ・本町(通)は江戸期からの呼び名であるが、整備されたのは天正期で元禄元年(1592)の指月伏見城築城に際しては交通の要路となった。江戸期の史料によると本町は五条通より南へ一丁目から十丁目(現在は二十二丁目まで)まであり、諸商家が軒を並べていた。 ・江戸末期の「花洛名勝図会」に東福寺門前の伏見街道や町並みの様子が描かれている(図3-1)。			
	3-1「花洛名勝図会」 元治元年(1864)年から 「恵日山東福禅寺」			
イ 町並みの特徴	・奈良街道（本町通）は京と伏見を結ぶかつての伏見街道の一部であり、沿道には和風意匠の酒屋と米穀店が多く、豆腐屋、魚屋、呉服店などの商店が点在する。歴史を感じさせる寺社や町家も残っている。 ・奈良街道（本町通）沿いより東側のエリアは、元は東福寺の境内であったが、明治以降市街化が進んだ。東山に向かってなだらかに登る傾斜地に、和風意匠の住宅が立ち並んでいる。生垣や和塀を持つ住宅も多く、落ち着いた雰囲気住宅地となっている。最近では小規模なマンション等の立地もみられる。			
ウ 景観形成方針	東福寺周辺特別修景地域	風致地区	山ろく型美観地区	
	東福寺の山ろく部の住宅地では、社寺及びその周辺における歴史的風致の継承を図る。	東福寺周辺は、境内地を中心に、南北の塔頭群、その背後の山ろくの和風感漂う住宅地等により歴史的風土としての環境が保全されているため、この風致の維持を図る。	東山の山ろくに広がる閑静な住宅地と旧街道の趣を残す本町通から構成され、この景観特性の継承を基本方針とする。	
エ 建築計画等に求める配慮事項	既存の自然石による石積擁壁の保存を行うとともに、擁壁を設ける場合は、自然石等の素材を使用する。また、建築物は、原則として日本瓦ぶき和風外観とする。			
				3-4 奈良街道の東側の住宅地の町並み

2 東福寺北側				参考写真等
ア エリアの歴史等	・東福寺塔頭万寿寺は、平安後期の創建とされ、火災等で移転した後に東福寺寺領の当地へ落ち着いた。地続きであったが、昭和初期の京都市電の軌道と九条通・東大路通の開通により、飛び地境内となった。万寿寺通は、かつて本寺があったことが由来である。 ・今熊野榎ノ森町の新熊野神社は、平安後期の創建で熊野牟須美命を祀る「京都三熊野」の一社である。江戸期の本社周辺は新熊野村を形成しており、現在も大字にその名残を残している。 ・東大路通に展開する新熊野商店街は新熊野神社・泉涌寺の門前町として古くから賑わっている。			
イ 町並みの特徴	・東大路通の南端には古い商店街の一つ今熊野商店街がある。今熊野商店街は東大路通の七条通から九条通までのアーケードを備えた商店街であり、中低層の町並みを形成している。 ・泉涌寺道沿いは、町家と新しい住宅とが混在する低層の町並みとなっている。東山に向かって緩やかに登る斜面地であり、石積みや擁壁が散見される。 ・泉涌寺道周辺は、細街路や袋路が多い。泉涌寺道沿いと同様に町家と新しい住宅が混在しているが、比較的小規模の住宅が多い。緩やかな斜面地に低層高密の住宅地が広がっている。 文化財等：萬寿寺客殿、新熊野神社本殿、瀧尾神社			
ウ 景観形成方針	旧市街地型美観地区	山ろく型美観地区	沿道型美観形成地区	
	京町家を中心とした歴史的な町並みを多く残す地域である。こうした景観特性の継承を基本方針とする。	泉涌寺や東福寺等の寺院と文教施設が立地し、起伏に富む地形により独特の景観を形成している。東山を身近に感じることができる。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないように、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。	
エ 求める配慮事項	建築物は勾配屋根を設け、道路に面して空地を設ける場合は門や塀を設置するなど、京町家や社寺と調和した町並み景観の保全、創出を図る。	中高木の樹木の保全と植樹に努める。泉涌寺道周辺の建築物は、和風基調の外観とし、また東山山ろくの緑豊かな自然景観との調和及び連続性に配慮する。		

3-5 「都名所図会」
安永9年(1780)から「新熊野社」本社と門前町の遠景が描かれている。

3-6 泉涌寺道沿いの細街路の町並み

3-7 東大路通沿いの今熊野商店街の町並み

3 東福寺西側				参考写真等
ア エリアの歴史等	・ 本地域の大部分が古くから耕作地であり、開けるのは大正期以降となる。 ・ 田中神社は本町通に東面する伏見稲荷大社の境外摂社で、「拾遺都名所図会」に「古は田野の中にあり。故に名とす」とあり、街道筋の旅人にとって必要な社であったといえる。 ・ 明治期から昭和初期にかけて、本地域内に現JR奈良線、現京阪電車京都本線の軌道が建設開業され、北部に現JRおよび京阪電車の「東福寺駅」、南部に京阪電車の「鳥羽街道駅」が開設された。耕作地は宅地へと姿を変え住宅地となった(図3-7)。			 3-8 「京都東南部」昭和7年(1932)  3-9 九条河原町から西への眺望 西山を背景に中高層建築物が立ち並ぶ  3-10 師団街道の町並み  3-11 九条通から東への眺望
	イ 町並みの特徴	・ この地域は若干の工場と住宅地で形成されているが、多くは戦後開発されたものである。中高層の住宅団地と二階建ての木造住宅が混在している。 ・ 九条通沿いは、中低層の住宅や商店が混在しているが、萬寿寺前から西は高架道路となっている。 ・ 師団街道は鴨川と鴨川運河に挟まれており、運河に近い場所では、運河沿いの緑が街路樹のような存在感となっている。沿道には中高層のマンションや工場が立ち並んでいる。 ・ 十条通は、第二京阪が並行しており、大規模な工場や公共施設が見えるが、視界は大きく開けている。		
ウ 景観形成方針	町並み型建造物修景地区	山ろく型建造物修景地区	沿道型美観形成地区	
	伏見街道の西、主に住宅地や学校等の教育施設が広がる地域である。	山ろくの自然景観と歴史的資産とが調和した良好な景観を形成している。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないように、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。	
エ 求める建築計画等に 配慮事項	大規模な建築物を有する敷地については、敷地内の緑化を誘導することにより、潤いのある都市景観を形成する。河川に面する敷地については、良好な水辺空間を形成するため、水辺側の景観にも配慮する。	建築物は勾配屋根を設けるとともに、壁面の色彩にも自然との調和を旨とする暖色系の自然素材色を用いることにより、まとまりのある町並み景観を形成する。		

- 3-1 「花洛名勝図会」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-5 「都名所図会」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-7 「京都東南部」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)